

「旅行を通して感じた事」

3年 M.H

夏休み中、家族旅行で台湾へ行きました。行った先での体験を通して感じた事を、今回の感話で述べたいと思います。

まず最初に、皆さんは外国人に対してどんなイメージを持っていますか？私は正直、外国人、主に中国や韓国の人に対して苦手意識を持っています。しかし、台湾で、私のそんなイメージを塗り変えてくれるような出来事が起こりました。

それは、台湾で乗った地下鉄での事です。地下鉄に乗るには、日本でいうパスモやスイカのようなチャージ式のカードを使う必要がありました。私たちはカードにお金をチャージしようとしていました。しかし、チャージのための機会が故障しており、チャージができない状態で父も母も「どうしようか？」と困っていました。そんな時、台湾人と思われる女性二人が、とても流暢な日本語で、「どうしましたか。」と声をかけてきてくれたのです。両親が事情を説明すると、女性二人はすぐに駅員さんに取り次いでくれて、無事に電車に乗る事ができました。

この出来事は、私にとって衝撃的で、外国人に対する私の思い込みを柔らげてくれるものでした。もし仮に私が女性二人の立場だったらどうしたでしょう。きっと、関わりたくない、面倒くさいと思って、さっさとその場を通り過ぎてしまう事でしょう。あの二人はとても親切な方たちでした。私も見習わなければならないと思いました。

また、別の場所でも衝撃的な出来事がありました。一日目の夜、士林というところの夜市へ行きました。縁日や屋台などを楽しみ、ホテルへ戻る道中でした。片腕が半分無くなっている男性が、路上で土下座をするような体勢でジタバタと動きまわっていたのです。私はそれを見たとき、怖くて兄にしがみついてしまいました。しかし、その様に「怖い」と思い動いてしまった自分に対し、後から嫌気がさしました。これがもし、体に障がいがあっても、暴れずに私に優しく接してくれる人なら、もっと受け入れた対応ができたでしょうか。きっと、それでも私は少なからず動揺してしまうでしょう。体の見た目に多少違いがあるだけで怖がってしまう自分に、少し腹が立ちました。

この二つの出来事に共通して言える事は、その出来事によって感じた事・生じた気持ちは、全て私の外国や障がい者に対する偏見や思い込みから来ているという事です。まだ全く話した事もないのに、「外国人だから。」「見た目に障がいがあるから少し怖い。」と思ってしまうのはとんでもない事だと心の中では分かっているのに、どうしてもその様な人達を目の前にすると、苦手意識が出てしまいます。そんな自分が自分で嫌になります。

この感話を書く直前、小六の頃の宿題で「どんな人でも同じ人間。差別はやめよう！」といった内容のポスターを描いた事をふと思い出しましたが、これは今の私にとってはきれいな事にしか過ぎない事を思い知らされました。

人への差別をしないためにはどうすればよいのでしょうか。私は、いろんな人と関わって、その人々や国についてしっかり知る事が大切だと思います。その人について何も知ら

ないで悪口を言ったり勝手に苦手意識を持つ事が、差別や偏見に繋がるのではないのでしょうか。これらの体験を通して、私は人を見た眼で判断しない人になりたいと思いました。

今回の旅行は、私の外国人や障がい者への考えを改める良いきっかけになったと思います。これから、自分にとって苦手な人でも少しずつ自分から心を開いて接していけるよう努力したいです。